

## 5 熱中症対策について

### （１）熱中症警戒アラート、熱中症特別警戒アラートの認知度

◇「(ア) 熱中症警戒アラート」の『知っている（計）』は9割台半ば、「(イ) 熱中症特別警戒アラート」の『知っている（計）』は約9割

問7 以下について、どのような時に発表されるか、また発表された際に取りべき行動を知っていますか。（○はそれぞれ1つずつ）

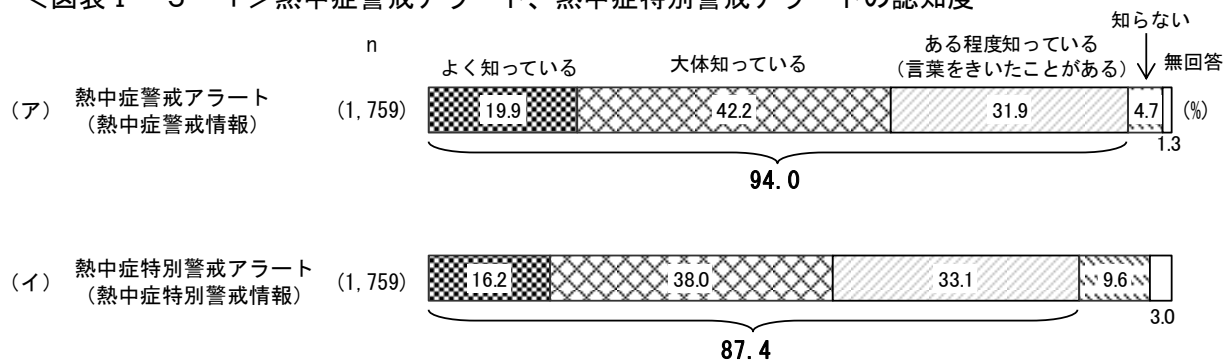
※ 「熱中症警戒アラート」は、県内いずれかの暑さ指数情報提供地点で、暑さ指数(WBGT)が33以上となる場合に発表。

熱中症の危険性が極めて高い状況となるため、普段以上の熱中症予防行動（エアコン等の使用や水分・塩分補給、周囲の方への声かけ等）が必要です。

※ 「熱中症特別警戒アラート」は、県内全ての暑さ指数情報提供地点で、暑さ指数(WBGT)が35以上となる場合に発表。

広域的に過去に例のない危険な暑さとなるため、上記熱中症予防行動を徹底することに加え、危険な暑さから自分と自分の周りの人の命を守る行動が必要です。

＜図表 I－5－1＞熱中症警戒アラート、熱中症特別警戒アラートの認知度



「(ア) 熱中症警戒アラート」の認知度については、「よく知っている」(19.9%)、「大体知っている」(42.2%)、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」(31.9%)を合わせた『知っている（計）』(94.0%)が9割台半ばとなっている。

「(イ) 熱中症特別警戒アラート」の認知度については、「よく知っている」(16.2%)、「大体知っている」(38.0%)、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」(33.1%)を合わせた『知っている（計）』(87.4%)が約9割となっている。（図表 I－5－1）

#### 【地域別】

地域別では、「(ア) 熱中症警戒アラート」、「(イ) 熱中症特別警戒アラート」ともに、大きな傾向の違いはみられない。（図表 I－5－2）

#### 【性・年代別】

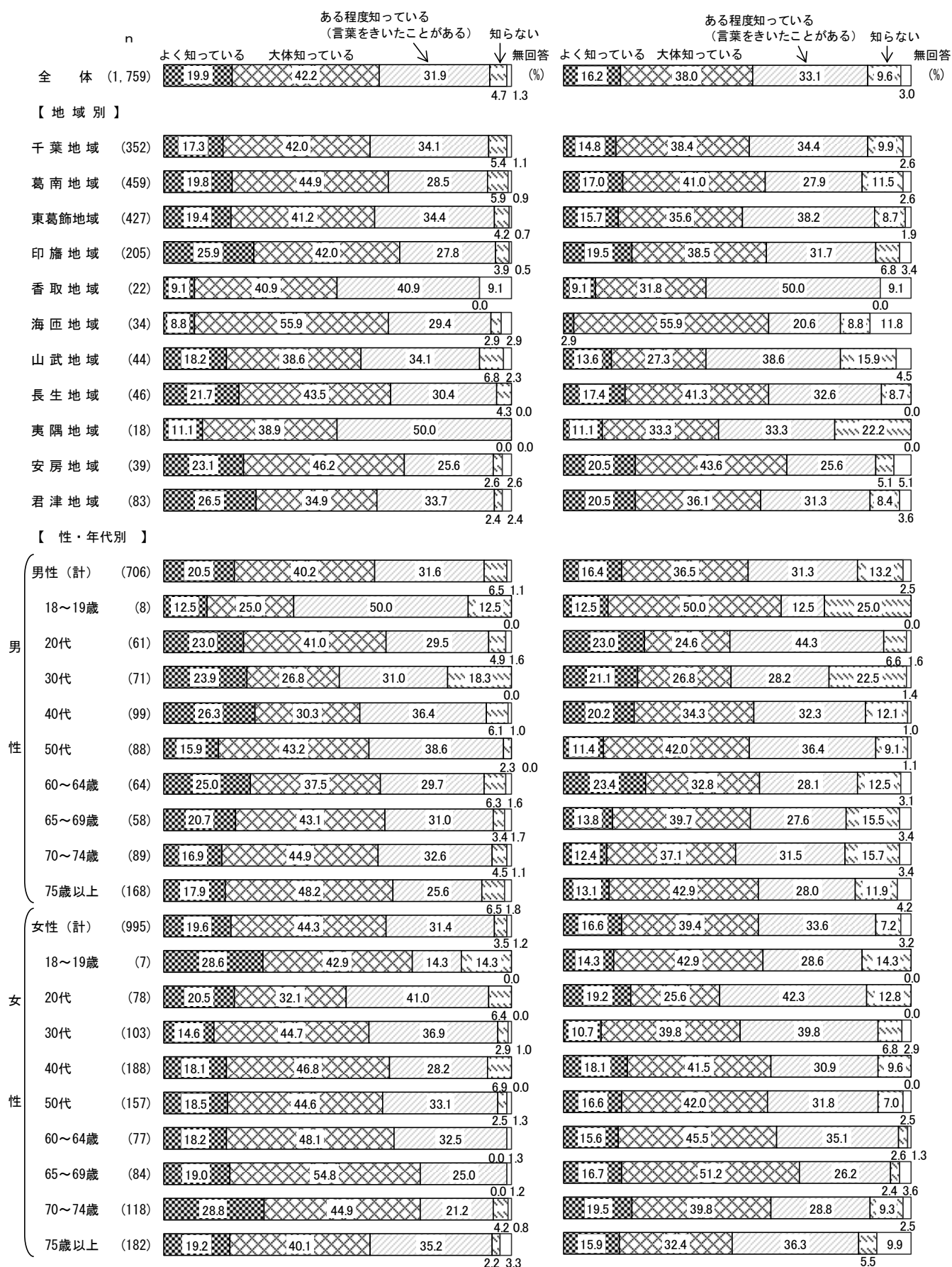
性・年代別にみると、「(ア) 熱中症警戒アラート」について「知らない」は、男性の30代(18.3%)が約2割で高くなっている。

「(イ) 熱中症特別警戒アラート」について『知っている（計）』は、女性の60～64歳(96.1%)で9割台半ばと高くなっている。一方、「知らない」は男性の30代(22.5%)が2割を超え、男性の70～74歳(15.7%)が1割台半ばで高くなっている。（図表 I－5－2）

＜図表 I－5－2＞熱中症警戒アラート、熱中症特別警戒アラートの認知度／地域別、性・年代別

（ア）熱中症警戒アラート

（イ）熱中症特別警戒アラート



## （２）「クーリングシェルター」、「涼み処」の認知度

◇「クーリングシェルター」、「涼み処」ともに、『知っている（計）』が２割を超える

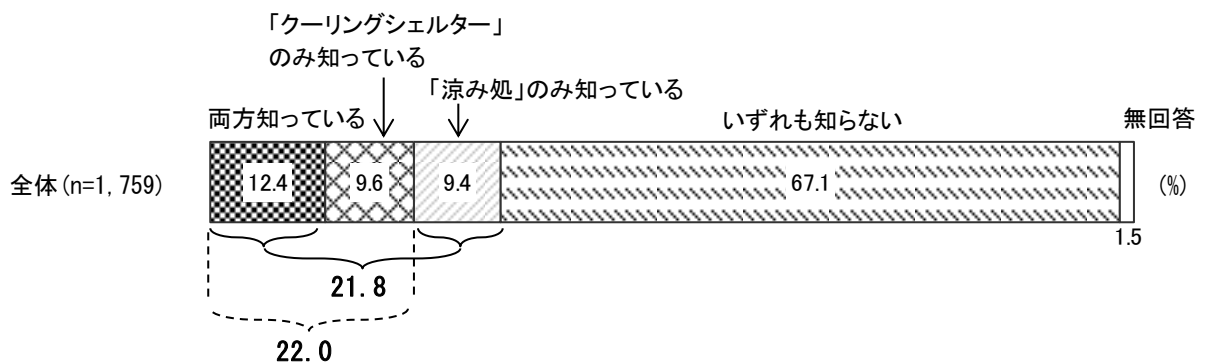
問８ 暑さをしのげる施設である「クーリングシェルター※」と「涼み処※」を知っていますか。

（○は１つ）

※ 「クーリングシェルター」とは、危険な暑さから避難できる場所として市町村長が指定した施設であり、熱中症特別警戒アラートの発表期間中、一般に開放されます。

※ 「涼み処」とは、熱中症特別警戒アラートの発表状況に関わらず、クールシェア・休憩を目的に一般に開放されている施設で、クールスポット等と呼ばれている場合もあります。

＜図表Ⅰ－５－３＞「クーリングシェルター」、「涼み処」の認知度



「クーリングシェルター」の認知度については、「両方知っている」（12.4%）と「クーリングシェルターのみ知っている」（9.6%）を合わせた『知っている（計）』（22.0%）が２割を超えている。

「涼み処」の認知度については、「両方知っている」（12.4%）と「涼み処のみ知っている」（9.4%）を合わせた『知っている（計）』（21.8%）が２割を超えている。

また、「クーリングシェルター」、「涼み処」を「いずれも知らない」（67.1%）は約７割となっている。（図表Ⅰ－５－３）

### 【地域別】

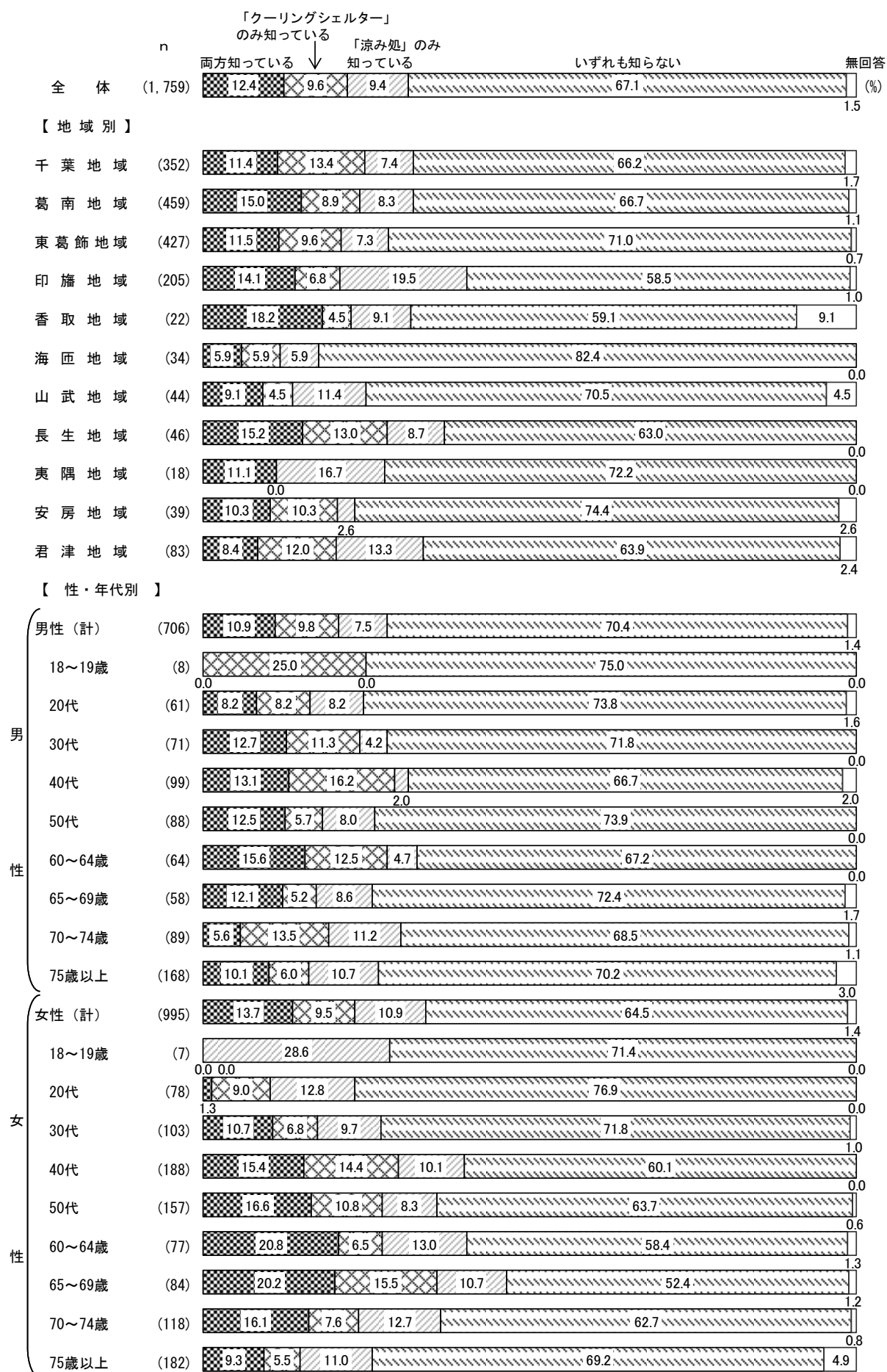
地域別でみると、「涼み処」について『知っている（計）』は“印旛地域”（33.7%）が３割台半ばで高くなっている。（図表Ⅰ－５－４）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「クーリングシェルター」について『知っている（計）』は女性の65～69歳（35.7%）が３割台半ば、女性の40代（29.8%）が約３割で高くなっている。

「涼み処」について『知っている（計）』は女性の60～64歳（33.8%）が３割台半ば、女性の65～69歳（31.0%）が３割を超えて高くなっている。（図表Ⅰ－５－４）

＜図表Ⅰ－５－４＞「クーリングシェルター」、「涼み処」の認知度／地域別、性・年代別



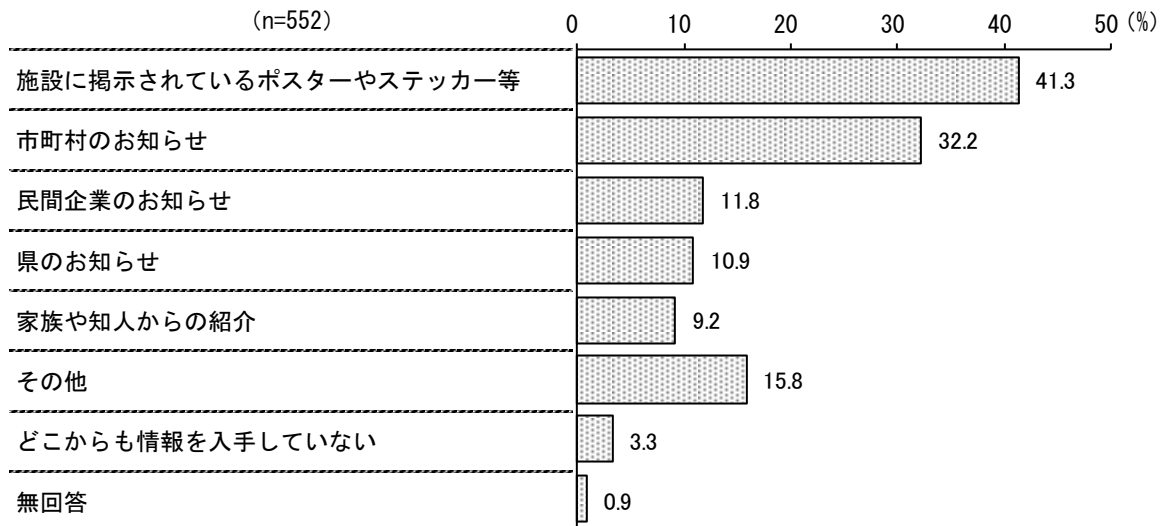
## （２－１）「クーリングシェルター」、「涼み処」の認知経路

◇「施設に掲示されているポスターやステッカー等」が４割を超える

（問８で「両方知っている」、「『クーリングシェルター』のみ知っている」、「『涼み処』のみ知っている」のいずれかをお答えの方に）

問８－１ クーリングシェルター・涼み処について、どこで知りましたか。（○はいくつでも）

＜図表Ⅰ－５－５＞「クーリングシェルター」、「涼み処」の認知経路（複数回答）



「クーリングシェルター」、「涼み処」の両方もしくは、いずれかを知っていると回答した552人を対象に、認知経路を聞いたところ、「施設に掲示されているポスターやステッカー等」（41.3%）が４割を超えて最も高く、以下、「市町村のお知らせ」（32.2%）、「民間企業のお知らせ」（11.8%）、「県のお知らせ」（10.9%）が続く。（図表Ⅰ－５－５）

### 【地域別】

地域別で大きな傾向の違いはみられない。（図表Ⅰ－５－６）

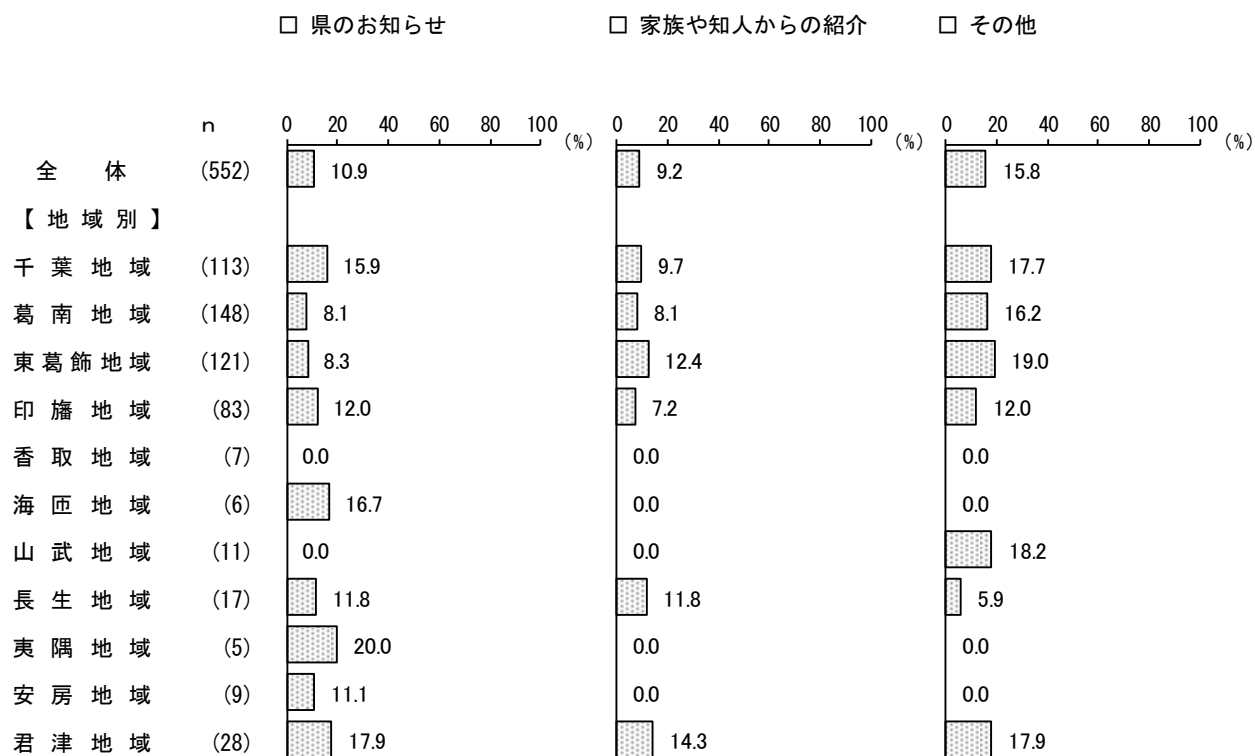
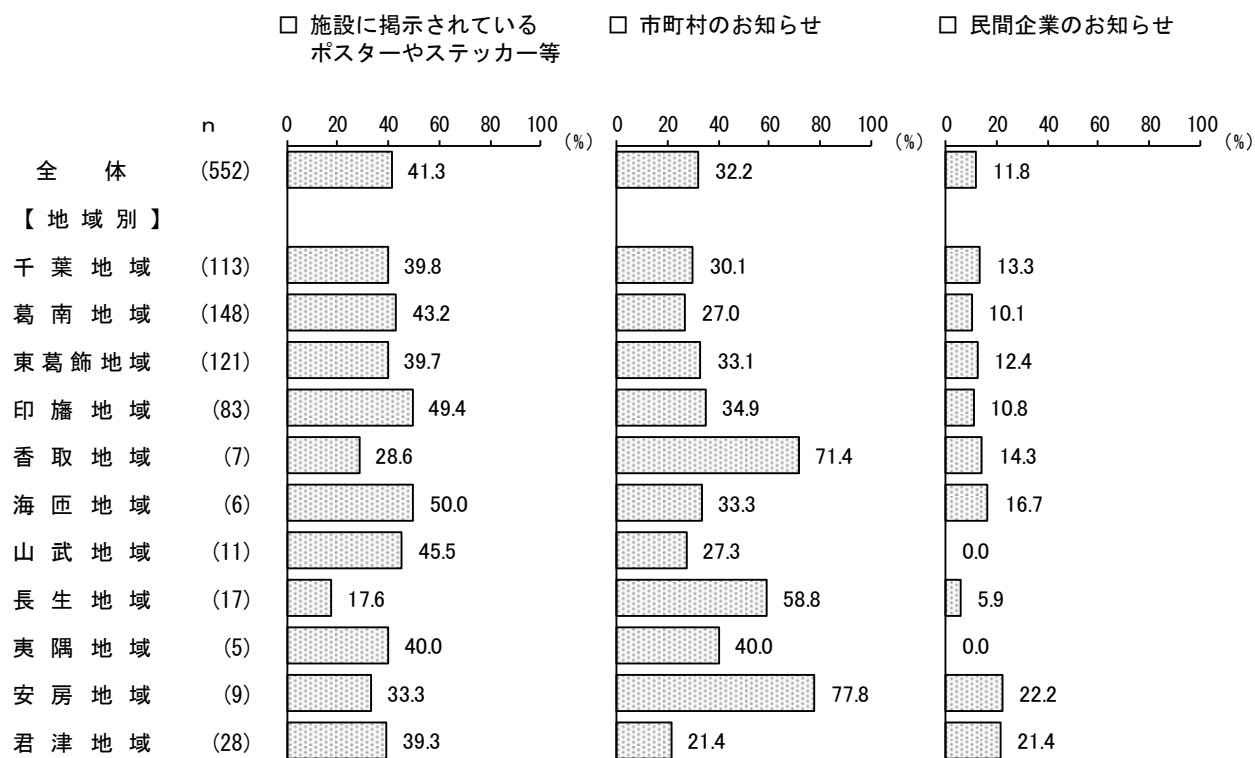
### 【性・年代別】

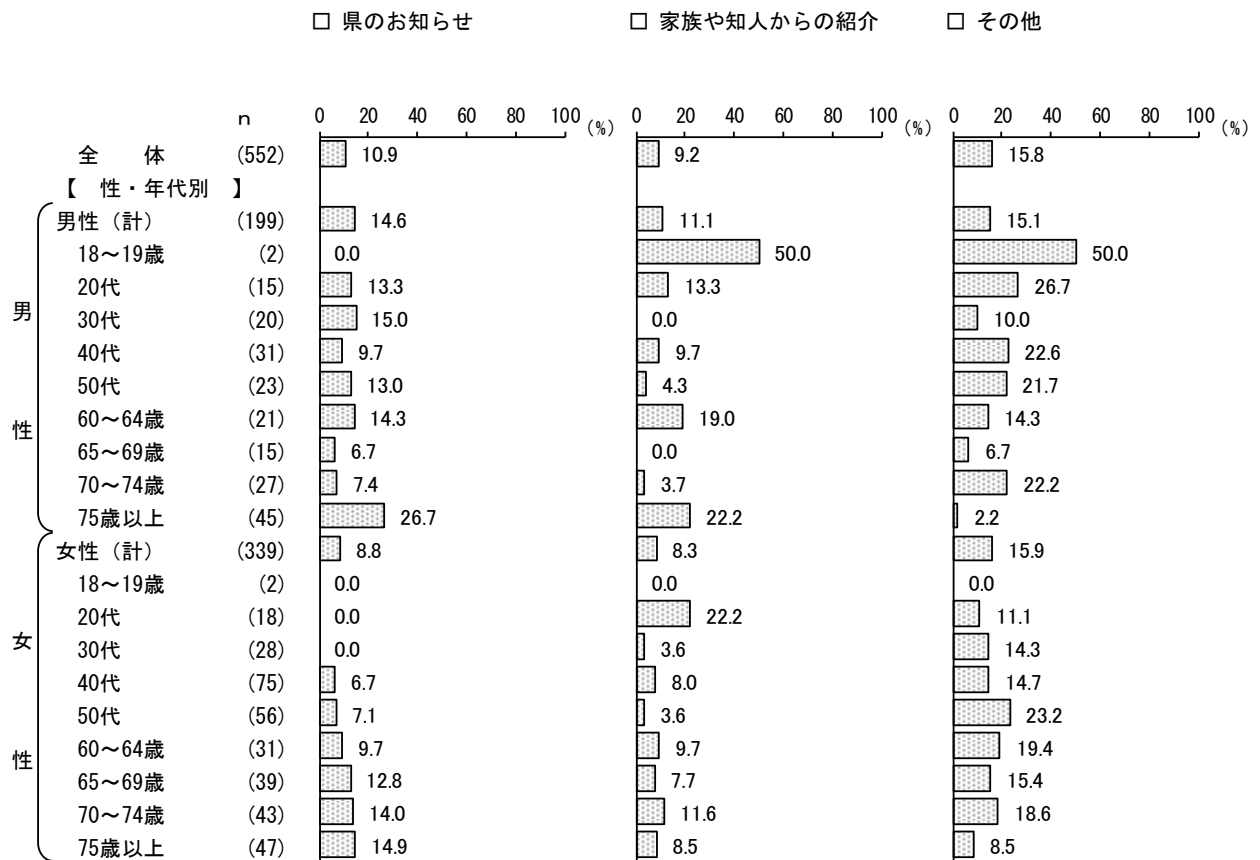
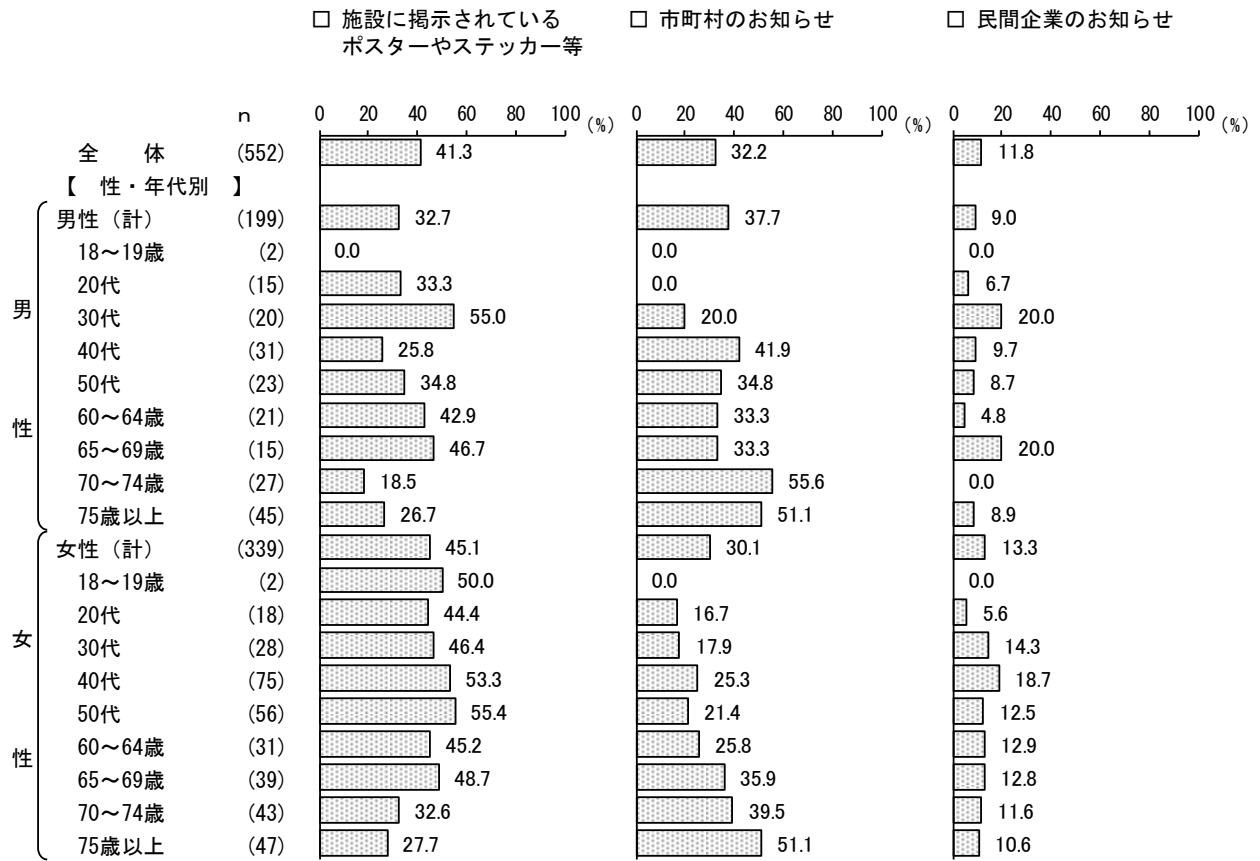
性・年代別にみると、「施設に掲示されているポスターやステッカー等」は女性の50代（55.4%）が５割台半ば、女性の40代（53.3%）が５割を超えて高くなっている。

「市町村のお知らせ」は男性の75歳以上（51.1%）と女性の75歳以上（51.1%）が５割を超えて高くなっている。（図表Ⅰ－５－６）

＜図表Ⅰ－５－６＞「クーリングシェルター」、「涼み処」の認知経路（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位６項目）



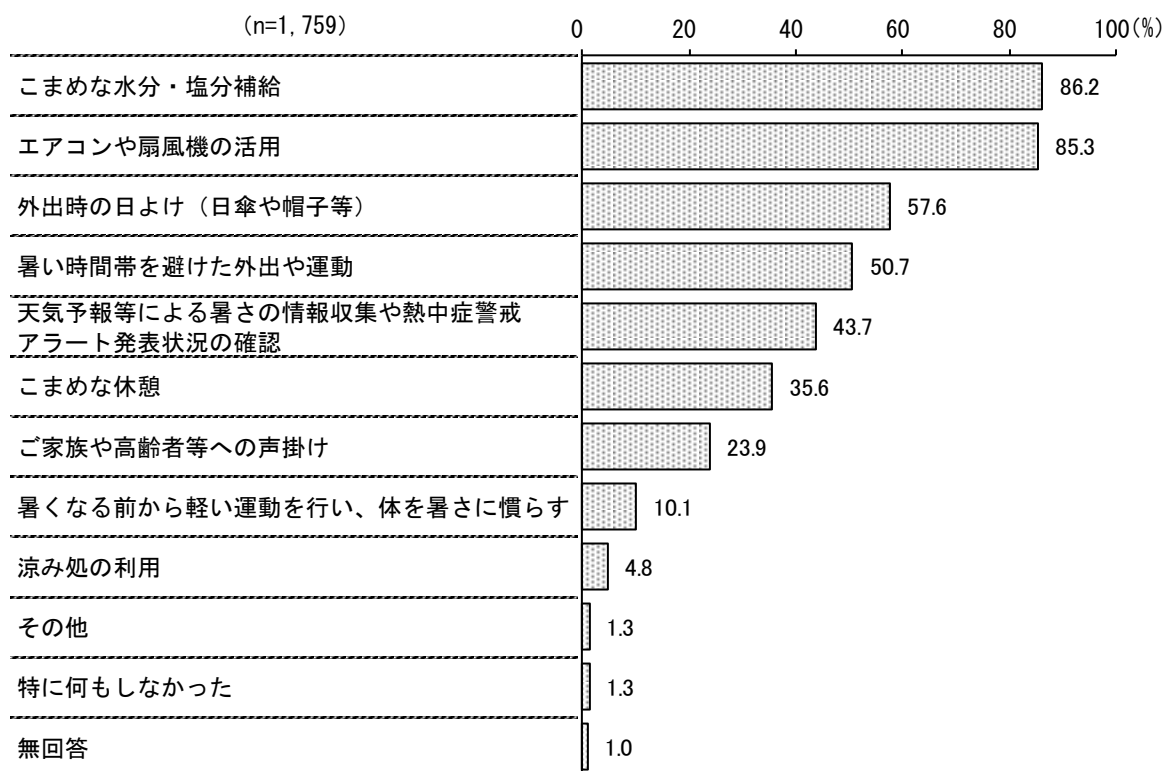


### （３）この夏に熱中症予防のために行った行動

◇「こまめな水分・塩分補給」、「エアコンや扇風機の活用」が８割台半ば

問９ 熱中症予防のために、この夏に行った行動はありますか。（○はいくつでも）

＜図表Ⅰ－５－７＞この夏に熱中症予防のために行った行動（複数回答）



この夏に熱中症予防のために行った行動を聞いたところ、「こまめな水分・塩分補給」（86.2％）が８割台半ばで最も高く、以下、「エアコンや扇風機の活用」（85.3％）、「外出時の日よけ（日傘や帽子等）」（57.6％）、「暑い時間帯を避けた外出や運動」（50.7％）が続く。（図表Ⅰ－５－７）

#### 【地域別】

地域別にみると、「外出時の日よけ（日傘や帽子等）」は“東葛飾地域”（62.1％）が６割を超えて高くなっている。（図表Ⅰ－５－８）

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「こまめな水分・塩分補給」は女性の70～74歳（92.4％）が９割を超えて高くなっている。

「エアコンや扇風機の活用」は女性の40代（92.0％）、女性の50代（91.7％）が９割を超えて高くなっている。

「外出時の日よけ（日傘や帽子等）」は女性の30代（79.6％）が約８割、女性の65～69歳（76.2％）と女性の70～74歳（75.4％）が７割台半ば、女性の75歳以上（72.5％）が７割を超え、女性の50代（70.7％）と女性の60～64歳（70.1％）が７割、女性の20代（69.2％）が約７割、女性の40代（66.5％）が６割台半ばで高くなっている。（図表Ⅰ－５－８）



<図表 I－5－8> この夏に熱中症予防のために行った行動（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位 6 項目）

